

奥とブーゲンビルの対話—地域共同体の自立とは？

大西 正幸

■ 参加者

ジェイムズ・タニス：パプアニューギニアのブーゲンビル自治州前大統領。内戦の終結に貢献する。現在は、目前に控えたブーゲンビルの独立に向けて、戦後の復興、和解、農村レベルの行政組織の整備等に当たっている。大西 FS のコアメンバー。この対談の直前の 10 月 3 日には、琉球大学で、ブーゲンビルのアイデンティティをテーマにした講演を行った。

大西 正幸：FS「アジア・太平洋における生物文化多様性の探究」責任者。

島田 隆久：国頭郡国頭村奥区の区長を二期務め、指導者として奥区の発展に貢献。特に、奥の字立「民具資料館」の設立、『奥共同店創立百周年記念誌』の編集など、奥の文化事業の中心的存在。大西 FS のコアメンバー。

宮城 能彦：沖縄大学人文学部教授。社会学者で、奥の共同店の歴史などを専門にする。当日、奥で調査中だったので、対談に飛び入りで参加してもらう。

宮城 邦昌：在那覇奥郷友会会長。大西 FS のコアメンバー。

■ はじめに

10 月 4 日夜、奥の民宿「海山木」にて。前日 3 日には、ブーゲンビルのアイデンティティをテーマとするタニスさんの琉大講演があり、また 4 日昼は摩文仁の丘のブーゲンビル慰霊碑訪問、玉城深福さんとのブーゲンビル戦をめぐる対談があった。これらについての感想を基点に、沖縄戦を体験し奥の戦後復興と復帰後の地域振興の中心的存在だった島田隆久さん（77 歳）と、ブーゲンビルの内戦を闘い、和平交渉に中心的な役割を果たして、いま内戦後の国作りに向けて、村レベルでのガバナンスの確立に意欲を燃やしているジェイムズ・タニスさん（49 歳）との間で、地域共同体の自立とは、という大きなテーマを、いろいろな角度から語ってもらった。

■ 対話の記録

イントロ—英語でのコミュニケーションについて

島 田：タニスさん、Where did you study Japanese language?

タニス：In Papua New Guinea.

島 田：Papua New Guinea, yeah? Oh yea, I see.

タニス：1984-1985, quite a long time. So, 日本語、忘れました。

島 田：はい。でもいい。I think you like study.

タニス：Yes, I like study. I like to study history, language, culture. And I want to come to Okinawa again, to Oku village. I want to come and visit.

島 田：We have a museum in Oku. Tomorrow, we will show to you the museum.

タニス：Yes. Yes, I'm interested in seeing the museum. Yes. 英語話せます。

大 西：I know.

タニス：Shimada-san, you do speak English.

島 田：あのね、タニスさん。あんたの、このプロナンシエーション、先生が来てから。あの、邦？京都大

学の先生は、なんだった。お名前。

大 西：Nさん。

タニス：It's getting interesting. Shimada-san is speaking English - good English.

島 田：先生。このタニスさんの発音はね、あの、私たち素人が非常に聞きやすい。もちろん私、英語好きじゃないのよ。たとえば、今日、本土に行った、何？

大 西：Nさん。

島 田：Nさん。Nさんの発音は、同じ発音でも私たちには非常に聞きにくい。

大 西：ネイティブですよ。

島 田：Nさんのね。非常に差がある。

大 西：あの、非常におもしろいのは、タニスさんの奥さん、英語全然しゃべれないんですよ。あの、なんかネイティブの人の英語を聞くとちょっと恐怖を覚える。だから、ぼくらが村に行くと、非常に聞きやすいので、すごい喜んでくれる。それと同じですね。

島田：おんなじですか。

大 西：それで、とっても聞きやすいです。

島 田：非常に感じる。私は。

大 西：He likes your English very much. I hope your wife likes our English.

タニス：Yes, she will be very happy to come.

大 西：She will feel very relaxed.

タニス：Yes, yes.

大 西：なんか、奥さんはすごい、あのう、オーストラリア人とか、アメリカ人の英語を聞くと緊張するんだそうです。ぼくらが行くと、すごく・・・。

タニス：Even before when I was studying Japanese language, my teacher K Sensi used to tell me, I speak like a Japanese, my pronunciation of Japanese, so...

大 西：タニスさんの母語のナゴビシ語は、とても日本語に似てるんですよ。だから、とても聞きやすいんです。

島 田：だから、プロナンシエーションがとっても聞きやすい。

大 西：どうぞお2人で話してください。

タニス：I can tell his pronunciation is not like Japanese. He is pronouncing as a white man, with a white accent.

島 田：でも、もうほとんど忘れてるから、もういい。

大 西：いや、すぐ思い出しますから。

リーダーシップ—奥のガバナンスの本質について

タニス：I'm interested to know your leadership in the village - how people follow you. How - what makes people to follow you?

島 田：これは、大西さんの、ちょっとアシスタントが必要。今、彼が言ってる部落の問題だから。

大 西：リーダーとして島田さんがとても優秀な方だったということを聞いているので、彼もリーダーですから、どういことが、島田さんがリーダーとして、他の人がついてくる要素だったんですかね。

島 田：ううん。私は、よく人とけんかするんだが、この部落はけんかするんだが、でも、公平。あれとか、これとかいうことはしない。全部同じ。同じフィロソフィで見てるから。もちろん、嫌う人もいるんだが。

大 西：In this village, people are very independent and they debate each other very strongly. They oppose to each other. But still, you know, there's respect in it, yes.

タニス：Yes.

大 西：So, that's very special, yeah.

タニス：What do the Japanese people look for in a leader? What would they expect a leader to do for them to respect them?

島 田：先生、また一つ、はい、これも、非常に大事な関連した話、はい。

大 西：日本人が、その指導者、リーダーとして、一番大事だと思うものは何か。

島 田：まず、日本人、私わかりません。このビレッジで？

タニス：ビレッジで、奥ビレッジで。

島 田：一番リーダーとして大事で、今から 100 年前から今までやってきたのは何かといいますと、人を集めて、たくさん論議をすること。そして、1 人や 2 人じゃない、多数決で決める、全部集めて。全部集める。そのかわり、多数決で。うんとけんかもする。けんかもする。これが、この部落の一つのシステム。そして、これが非常に厳しい。マニーに関しては。1 銭でも見逃さない。全部でチェックする。マニーに関しては見逃さない。全部、立派な経理作業をしておりますか、ということ。

タニス：Yes.

大 西：That's the philosophy or history of this small hamlet, that they debate, everyone should be involved in that, every opinion should come out in participation. And then, last is they vote and decide that they have to follow.

タニス：Yes, ownership - participation and ownership by the people.

大 西：Yes. And on the financial side, every detail should be looked after.

タニス：Transparency.

大 西：Yes.

タニス：Accountability.

大 西：Yes. That's the philosophy of this village.

タニス：Yeah. Interesting! It's the same in Bougainville, similar in Bougainville - people respect those who are honest with money. But also in Bougainville, in the village, people respect leaders that open their house to feed people - to get people to eat in the house.

島 田：これだけやっておけば、どんな、何名かの人を連れてきて反抗しても、ノープロブレム。人が救ってくれる。

タニス：Very interesting! Yes. Do you have clans?

島 田：何ですか？

タニス：Clans?

大 西：clan です。あのう、親族関係で繋がっている一つの。

島 田：親族関係？

大 西：グループ。

島 田：こういうものは、奥にいないですね。

大 西：No.

島 田：なぜか、私はプアーピープル出身だから、人間関係の系列は、私は持ってない。でも、たくさん的人是、こういうもので生きてきた、奥、沖縄では、どの社会も、日本は。でも私はそういうものはない。

大 西：He doesn't care about blood relations. He is very independent in that respect. He is very special. He is a very individual person.

タニス：Interesting! Yes.

自立的な経済運営システム—奥共同店について

島 田：でも、これは、あの、宮城先生、ちょっと質問。大西さん、ちょっと説明して。あの人が、あの、この奥のフィロソフィーを主に、この、エコノミックのね、経済を握るフィロソフィを研究してるんだが、奥のいいところを、あの人から、この人に、あの人個人の感想でいいですから、先生ちょっと述べて。この先生がまた、言いますから。この人がこれ、聞きたがってるから。

宮城（邦）：これですよ。

大 西：He studies philosophy of Oku from the perspective of how they manage the financial side, economical side. He is a specialist in that. So, we asked him to make comments on it.

島 田：私より彼がわかるから。

宮城（能）：いやいやいや、そんな、そんな。

島 田：いや、一言は言って、先生。共同店の話でもいいしね。早かったのとか、遅かったのか、こういう話でもいいから。非常に、将来、影響力のある人、今はわからないんだが、ブーゲンでもよ。

宮城（邦）：村おこしをやる。

島 田：村おこしを、将来やる。

宮城（邦）：テーマを奥に求める、というのがあるんです。だから、復興祭というものをやったら、すぐ飛び乗ってきた・・・。だから、僕から言わせれば、まず、猪垣があって、共同店でこういった活動、奥の村を発展させてきたけど、その一つにオランダハネグとか、いろんなテーマがあるんですよ。そこがおもしろくってしょうがないです。で、今、どうなってるかなんだけれども、まあ、議事録めくって読んだりしても、毎日が楽しくてしょうがないです。

島 田：宮城先生、5分、ちょっと待っていいですかね。邦！猪垣も一緒じゃないか。見せてないでしょ。大西さんにも見せてないでしょ。

宮城（邦）：いや、大西さんは、去る時に・・・。

大 西：一緒に行きました。

島 田：見ていらっしゃる。じゃあ、ぜひ、タニスさんにも見せよう。

宮城（邦）：宮城先生はもう。

島 田：じゃああの、5分したら、次は宮城先生の番ですから、ひとつよろしく。

宮城（能）：ちょっとトイレに行ってくる。

宮城（邦）：相当緊張してる。

大 西：He is retired to prepare for that.

男性 A：Tomorrow?

大 西：No, now, he was given five minutes!

宮城（邦）：あの、そこにもトイレがあるもんですから。

タニス：Yes. So, Oku's mobility is based on the economic viability and freedom of speech of the villagers.

大 西：Yes. You summarized well.

タニス：I'm a sensei. (笑) Yes, tell him that I summarized it, so you don't need it.

大 西：今聞いた話から、要するに、奥を支えたのは、まず民主主義。それと、そのエコノミーのことをやって、そのマネジメントをした、その二つですか？

島 田：はい、はい、はい。

タニス：Economic mobility and freedom of speech, that's it.

島 田：エコノミックの前に、まず民主主義です。奥はね。

大 西：But he said democracy is first.

タニス：Yes, that's freedom of speech.

大 西：Then comes economy.

宮城(能)：すいません、ぼく、英語で言ったらぼろが出るので。通訳してくださいね。

島 田：いや、英語じゃない、先生が、あのう、やるから。

宮城(邦)：我々にもわからない。

宮城(能)：あの、まあ、要するに、100年前に、その、資本主義になって、資本主義からの収奪から、どう村を守るかっていうところにできたのが、共同店。共同売店。

島 田：あんまり長くやったらあれだから。はい、この辺で。

タニス：He just got a new topic.

大 西：So basically 100 years ago, capitalism tried to sort of control the Japanese economy, so that's a kind of gesture or governance system created by this village people to defend themselves, their own economy - yes, that's 100 years ago.

宮城(能)：それで、そのままだと、その、ただでさえ少ない現金収入が、全部収奪されてしまう。

大 西：So if they don't do anything, then all the cash, which is not much because the village was based on sustainable economy - cash economy will be totally controlled by this capitalism system.

宮城(能)：それで、村で、あの、生協を、コープを作って、あの、自分たちで出資して、店を作って、自分たちの生産したもの、それで得た収入が、自分たちの村のなかで回るように、そういうふうなシステムを作ったんです。それが奥の共同店。

大 西：So to protect local industry within the village, they made up a system, which is called cooperative shop. It was the first cooperative shop in the history. Basically what they did was to control all the cash and earnings within the village itself, so it can't be exploited by the outside world.

ブーゲンビルの村落レベルの自立的ガバナンス確立に向けて

タニス：I'm getting interested because we have village government and village assemblies that are not properly organized as yet. And next year, the government will increase the budget for the village governance, and the village government doesn't have a good system as yet. So, I would want to hear more.

大 西：今、ブーゲンビルは、ちょうど国づくりの真っ最中で、村のレベルでのそういうガバナンスをどうするかっていうのが、非常に大きな問題で。で、あのう、ブーゲンビルの自治政府としては、もちろんお金を落とすんですけども、システムは全然できてない。ですから、奥のそういう、非常に有益で。ブーゲンビルのシステムに十分取り入れられる可能性があるのです。

宮城(能)：すごい参考になると思います。

大 西：It's very important.

島 田：でも、もう少し続けて。

宮城(能)：だから、その、たとえばその、今の沖縄観光が、観光客がどんなに来ても、結局日本の資本が儲かるだけ。

大 西：So like tourism - ecotourism, or whatever tourism - is now thriving in Okinawa, but basically the profit from this tourism goes to Japanese companies - because everything is controlled by Japanese companies, basically - and the branches of those companies in Okinawa. So, whatever profit they get, that doesn't go back to the local people - goes to the big companies in Japan.

宮城(能)：だけどその100年前に、奥集落は、奥の部落は、その、自分たちが、あの、商品を購入して、買って、そのお金が、そのまま、外の資本家に行くのではなくて、自分たちの集落のなかでお金が回るようなシステムを考えだしたわけです。

大 西：So Oku people buy and produce things within the community, it doesn't go back, go out from them. That's the

screening system - this cooperative shop. So everything should be through this cooperative shop.

タニス：What do they do with the money? Do they have a village bank - village-based bank or something that people took money and keep it there, like a village fund?

大 西：そのお金の管理の話を。

宮城(能)：はい、だから、その、奥の共同店というのは、銀行の機能も持ってる。それから、あのう。

宮城(邦)：保険会社。

宮城(能)：保険会社の機能も持ってる。それから、奨学金も出してる、学生に対して、奨学金も出してる。で、あの、あとは、あのう、保険会社。小売店であるし、保険会社であるし、バンクであるし、それから・・・。

宮城(邦)：あと、あのう、事業資金。

宮城(能)：うん、だから、バンクですね。

大 西：It has got multi-functions. It has got a banking system, it has insurance on its own, it even offers scholarships for people who want to study outside - so, everything. So, basically they controlled everything. So all the profit was kept within the community.

タニス：What level of education in terms of human resource is needed to run the system? I'm asking this because of the Bougainville lost generation.

大 西：今、そのブーゲンビルでは、10年間の内戦の結果として、ほとんど学校教育を受けていないジェネレーションができていて、だからそのコンテキストのなかで、たとえばそういうシステムを作った場合に、そのう、教育のレベルですね。どこまでやったらいいか、という、そういう現実的問題が生じる。

タニス：Or it can be run by just the village people?

大 西：もし、学校の教育を受けなくても、それは十分、マネージできる、ということでしょうか。

宮城(能)：できない。

大 西：できない。

宮城(能)：No です。

大 西：No. Certain level of education is necessary.

宮城(能)：やっぱり、あの、少なくとも、義務教育レベル。読み書き、計算。

大 西：Literacy, numeracy - at least junior high school level in Japan, like compulsory education, that's grade 9.

宮城(能)：それで、義務教育以上の学校に進学する場合には、奥の共同店がスカラシップ出してる。

大 西：So if you want to study the higher level education, and Oku Cooperative offers scholarship for those ambitious people.

タニス：Yes, Cooperative.

宮城(能)：そいで、病気や怪我をしたときの医療費も、共同売店が、あの、ほとんど利息なしで貸付ける。

大 西：There's also medical insurance offered by the cooperative system, so they are assured -

タニス：It's interesting because the group that you saw in Panguna - Me'ekamui, they've already started discussing the cooperative system and calling it actually the Cooperative System. They mentioned it during your visit. It's interesting.

大 西：あの、今、要するに、パングナ鉱山を開くことが、あたかもブーゲンビル独立の前提条件であるような、前提で話が進んでるんですね。彼は、そうじゃないシステムをブーゲンビルに入れたいと考えている。その場合のオルターナティブというのは、もう既にディスカッションは始まっているんだけど、現実的にどういうシステムにするかというところは弱いと。

タニス：We also had cooperative systems in 1960.

大 西：Yes, I read your article. You mentioned - briefly mentioned -

タニス：Yes, BANA Cooperative Society.

大 西：that people started that.

タニス：Yes. But then the government of Papua New Guinea came and broke it apart.

大 西：あの、非常にローカルなレベルで、そういう形での動きは非常にあったんですが、ただ、それはやっぱりいろんな形で潰されてきてたので、そういう具体的なイメージがたぶんあれば、ブーゲンビルもそういうシステムを導入する可能性が、非常に高いので。

タニス：And it worked. People were mobilizing together. But the central government in Port Moresby broke it.

島 田：宮城先生。ちょっと先生の意見の途中ですが、ま、先生、続けていいですが—そこで、あの、先生方がよくご存知の、大和の宮城県のシステムを—このコーパラティブシステムというのは、今から勉強すると思うんですが、私は非常に大事だと思うんですよ。そういう意味を含めて、そこを私、先生がなさるといこととは別に、沖縄よりも進んだヤマトなどでも、ちょっと逆に。

宮城(能)：ああ、そっか。だから今、日本が、日本の村が、あの、過疎化してて、非常に、その、停滞している中で、人口が少なくても、村を維持、継続させていけるシステムとして、今、日本全国から、これは、注目されてる。

大 西：Because in Japan, all the villages have - the population is getting older and older, so it's very difficult to make a community-based system work. So, they started to look back and started to study what this Oku village did 100 years ago. That's one of the reasons, motivations, that researchers in the mainland of Japan come here to study. So, he is guiding them.

タニス：Maybe I should continue coming, too, because I want to learn. I will continue to come because I want to learn, too.

大 西：もう、これから何度も来ますので、ぜひ教えてください。ということです。

宮城(能)：(拍手)

島 田：でも、宮城先生、そういう意味で、新しいこの若い青年大統領は、—あの、やってくださいよ、大西先生ね—国づくりをしようという考えですので、先生もうんとご協力できると思いますよ。先生は経済という面からね。あの、プアピープルがいかに、あの、集まって経済が発展するかという意味では、向こうはまだわかるから、そういう意味で私は、ブーゲンビルだと思うんです。本当に。

大 西：He studies not only Oku Village but all over Japan what kind of things were tried and are being tried at the moment because it's very important for this local community to survive in this severe political environment.

タニス：Yes. It's the same on Bougainville as here. Struggling - struggling. We tried cooperatives, we tried microfinance, but everything finished to go back - pulled from the center.

大 西：Yes - yes, I think the history of Oku really tells because it has got 100 years' experience, and everything was recorded. You will see tomorrow.

タニス：Yes, I'm lucky that I'm here. I also - I live in the village. And even though I became a president, I still continue to live in the village, and I feel with the village people. And I'll always be a village person, so that's why I'm interested.

大 西：彼、あの、大統領になっても、月曜から金曜までオフィスいるんだけど、土日は必ず村。完全にそれでやるという。

宮城(能)：素晴らしい。

タニス：Thank you for the explanation.

宮城(能)：Thank you.

(全員拍手)

宮城(邦)：宮城先生。あと2年したら(共同店)110周年。

宮城(能)：110周年。招待しましょう、来賓で。

宮城(邦)：今度のプロジェクトがスタートしたら、そのなかに含まれる、スケジュールのなかに含まれますから、ぜひまた来て。

■ 考察

この対談を通して、FSが目指していた異なる地域共同体の相互交流が、具体的な形で開けた。奥共同体の100年にわたるガバナンスの本質が、そのリーダーシップを背負った島田さんと、自立経済システム「共同店」の専門家宮城能彦さんを通して語られる。いっぽう、タニスさんは、ブーゲンビルでも草の根レベルでの自立的経済システム確立の動きがあったがこれまで潰されてきたこと、今、独立に向けて、村落レベルでのガバナンス作りを進める中で、奥の歴史に学んでいきたいこと、などが語られる。

今年の10月、奥では、共同店110周年を祝う催しが企画されている。タニスさんもこれに参加し、奥共同体との交流を一層深めることになりそうである。